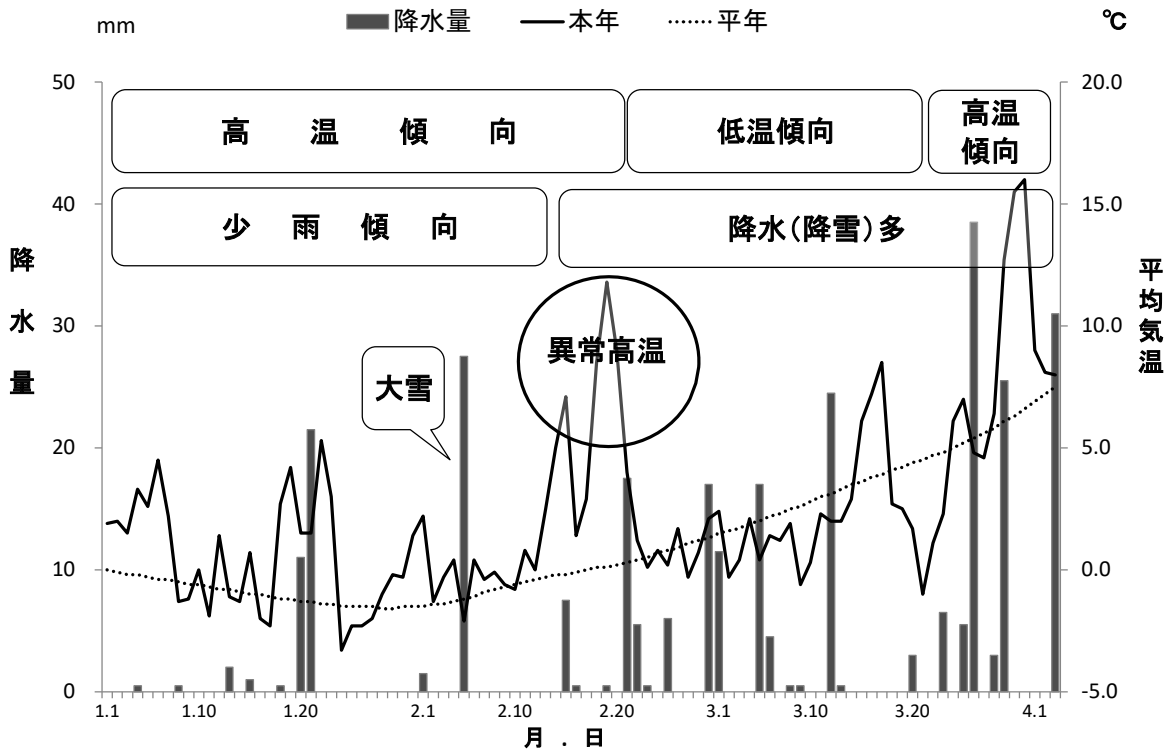


令和6年 作物技術普及情報 第4号

(麦の生育状況、2回目の追肥、水稻育苗管理について)

令和6年 気象経過(穂高アメダス 1月1日~4月3日)



1 気象状況

- ・ 3月末までは低温傾向でしたが、3月末から高温傾向となっています。2月下旬以降は降水(雪)が多い状況です。
- ・ 4月4日気象庁発表の1か月予想では気温は平年より高く、特に期間の半ばまでは、かなり高いと予想されています。

2 麦の生育状況と2回目の追肥について

(1) 麦の生育状況

- ・ 湿害等の障害を受けてない場合は、以下の生育状況と推定されます。

10月下旬 播種 → 生育量は「過剰」
11月上旬 播種 → 生育量は「やや過剰」
11月中旬 播種 → 生育量は「並」
11月下旬 播種 → 生育量は「やや少」

生育量は播種の早い圃場で過剰傾向です。降雨により1回目の追肥が遅れたため、生育量が不足している圃場（特に播種時期の遅い圃場）もあります。3月は降雨が多かったため、湿害症状の見られる圃場もあります。

2月中旬に異常高温の時期があり、早期に茎立ちが始まった圃場もありましたが、3月が低温傾向だったため、現在の麦の生育進度は平年並みを予想しています。3月27～29日の調査では、11月半ばまでに播種された圃場の生育ステージは、概ね以下の通りです。

大麦 幼穂長 約3～7mm 前後 止葉の2枚下が抽出始め
小麦 幼穂長 約1～2mm 前後

このため支援センターでは、大麦・小麦の止葉展開期、出穂始期、開花始期を以下の通りに予想しています。

しかし今後の気温は高いと予想されており、生育が早まることも予想されますので今後の気象状況と生育状況にご注意ください。

	大 麦		小 麦
止葉展開期	4月20日頃から	止葉展開期	4月25日頃から
出穂始め	4月27日頃から	出穂始め	5月 2日頃から
開花始期	5月 2日頃から	開花始期	5月 7日頃から

(2) 2回目の追肥時期

★ 一施肥二鳥や麦追肥1発肥料を施用した圃場では、2回目の追肥は不要です★

○ 大麦（ホワイトファイバー、ファイバースノウ）・めん用小麦（しろゆたか、しゅんよう、ユメセイキ）は止葉展開期を確認して適期追肥をお願いします。

大麦は4月20日頃から、めん用小麦（しろゆたか、しゅんよう、ユメセイキ）は4月25日頃から、止葉展開期を迎えると思われます。

○ 麦茶用大麦（シュンライ）・パン用小麦（ゆめかおり）は他の大麦やめん用小麦よりタンパクを高める必要があります。穂揃い期～開花期（出穂期から概ね7日後頃）を確認して適期追肥をお願いします。

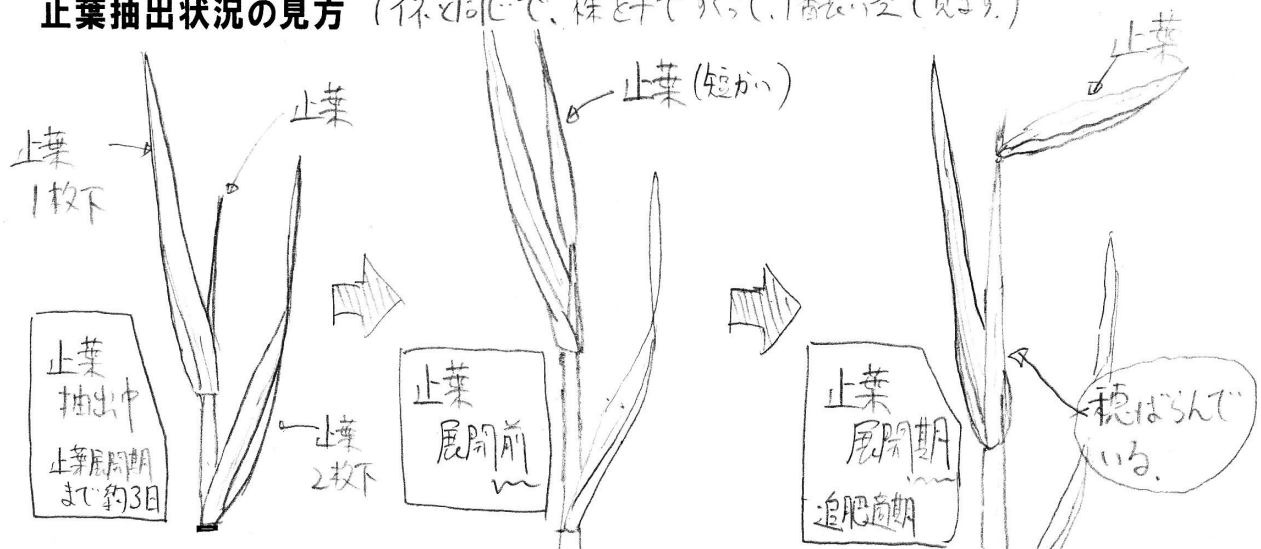
今後の気象状況にもよりますが、シュンライは5月の連休中、ゆめかおりは連休明けから穂揃い期～開花期を迎えると思われます。

○ 暖かい日が続くと、思ったより生育が進む場合があるので、今後の気象状況に注意してください

【注意】

- ★ 極端な早期追肥は倒伏を招きます。
- ★ 大麦の場合、適期を逃すと硬質麦(硝子率が増加)となり、品質ランクを落とします。
- ★ 麦茶用大麦・小麦の場合、適期を逃したり、無追肥だと低タンパクになり、品質ランクを落とします。
- ★ 適期に散布しても、土壌が乾燥していると効きませんので、降雨が期待できない場合、灌水とセットで実施してください。

止葉抽出状況の見方 (例と同じで、株を手で取って、1番長い茎で見ます)



(3) 2回目の追肥量

★圃場の生育状況に合わせた追肥量をお願いします★

追肥量の基準

- ★大 麦 (ホワイトファイバー、ファイバースノウ)
めん用小麦 (しろゆたか、しゅんよう、ユメセイキ)
窒素成分で2 kg / 10 a
(硫安の場合10 kg / 10 a) 前後
- ★麦茶用大麦 (シュンライ)
窒素成分で2 ~ 3 kg / 10 a
(硫安の場合10 ~ 15 kg / 10 a) 前後
- ★パン用小麦 (ゆめかおり)
窒素成分で4 ~ 5 kg / 10 a
(硫安の場合20 ~ 25 kg / 10 a) 前後

★大麦 (ホワイトファイバー、ファイバースノウ) ・めん用小麦 (しろゆたか、しゅんよう、ユメセイキ) の注意点★

生育が悪い圃場 (播種遅れ、湿害、凍上害等による)

- 追肥量は少なくする 窒素成分で1 kg/10a ⇒ 穂数少ないが登熟向上
- × 必要以上の追肥 ⇒ 大麦：硬質粒の発生、小麦：高タンパク化、粉色
・製麺性の低下

生育が良い圃場

- 基準量を追肥する 窒素成分で2 kg/10a ⇒ 基準量を追肥して登熟向上
- × 追肥未実施 ⇒ タンパク低下、充実不足による小粒化 (低収)

生育が良すぎる圃場 (過繁茂な圃場)

- 追肥量は少なくする 倒伏の恐れがあるので、窒素成分で1 kg/10a
- × 追肥未実施 ⇒ タンパク低下、充実不足による小粒化 (低収)

★麦茶用大麦 (シュンライ) の注意点★

生育が悪い圃場 (播種遅れ、湿害、凍上害等による)

- 追肥量は少なくする 窒素成分で2 kg/10a ⇒ 穂数少ないが登熟向上
- × 必要以上の追肥 ⇒ 必要以上の高タンパク化

生育が良い圃場

- 基準量を追肥する 窒素成分で2～3 kg/10a ⇒ 基準量を追肥してタンパク向上、登熟向上
- × 追肥未実施 ⇒ タンパク低下、充実不足による小粒化（低収）

生育が良すぎる圃場（過繁茂な圃場）

- 追肥量は少なくする 倒伏の恐れがあるので、窒素成分で2 kg/10a
- × 追肥未実施 ⇒ タンパク低下、充実不足による小粒化（低収）

★パン用小麦（ゆめかおり）の注意点★

生育が悪い圃場（播種遅れ、湿害、凍上害等による）

- 追肥量は少なくする 窒素成分で3 kg/10a ⇒ 穂数少ないが登熟向上
- × 必要以上の追肥 ⇒ 必要以上の高タンパク化、粉色・製麺性の低下

生育が良い圃場

- 基準量を追肥する 窒素成分で4～5 kg/10a ⇒ 基準量を追肥してタンパク向上、登熟向上
- × 追肥未実施 ⇒ タンパク低下、充実不足による小粒化（低収）

生育が良すぎる圃場（過繁茂な圃場）

- 追肥量は少なくする 倒伏の恐れがあるので、窒素成分で3 kg/10a
- × 追肥未実施 ⇒ タンパク低下、充実不足による小粒化（低収）

（４）麦の赤かび病の防除について

赤かび病に感染すると屑粒が多発して収量が減少するほか、かび毒の一種、デオキシニバレノール（DON）等を生成することが知られています。

このため、検査規格の中に赤かび粒の混入許容値が定められており、本病が発生すると、販売や流通の大きな障害となります。

別添の「コムギ赤かび病の防除を徹底しましょう」をご参考いただき、防除の徹底をお願いします。

支援センターでは、大麦・小麦の開花始期を以下の通り予想しています。しかし、今後の気温は高いと予想されており、出穂～開花が予想より早まることも考えられますので、今後の気象状況と生育状況にご注意いただき、適期防除をお願いします。

	大 麦		小 麦
出穂始め	4月27日頃から	出穂始め	5月2日頃から
開花始期	5月2日頃から	開花始期	5月7日頃から

3 水稲の育苗管理について

(1) 浸種～催芽について

4月は高温が予想されています。このため例年通りの浸種～催芽管理を行うと思ったより早くから芽が動き、伸びすぎてしまう事も予想されます。

浸種～催芽作業にあたっては、今後の気温に注意し、芽の動きをよく観察して作業を進めるようお願いします。

(2) 育苗管理について

寒暖の差が激しいと、ムレ苗や苗立枯病等が発生します。4月は高温が予想されていますので、天気予報に十分注意し、温度管理の徹底をお願いします。

特に霜注意報が出た朝は晴天になることが多く、急激にハウスやトンネル内が高温になるので、換気を早めに行うようお願いします。

ハウスのビニールや保温資材を新品にした場合や、ハイマットやラブリットをベタがけしている場合は、高温により苗を焼いてしまう場合もあります。

晴天日の温度管理には細心の注意をはらい、出芽後は速やかに除去するようお願いします。除去のタイミングが遅い場合がありますので、ご注意ください。

平置き無加温出芽で、太陽シートを使用している場合、曇雨天等で低温傾向が続く場合は、晴天になった時に一旦被覆を開き、育苗箱の地温を上げてから再度被覆して、出芽を促してください。